

## 公表

○事業所名	オンライン砺波B		
○保護者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	令和7年1月17日		～ 令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・視覚スケジュールによって、順番と時間を意識した取り組みの習慣化を行っている。	・低学年中心の別事業所で決まった順番に取り組むことが習慣化できた児童を当事業所が受け入れているため、時間も意識した取り組みの習慣化がスムーズである。 ・タイマーや時計で時間の区切りも分かりやすくしている。	・現在、時計は視覚的・感覚的に分かりやすいアナログ式を採用しているが、デジタルデバイスを意識してデジタル時計も取り入れたい。
2	・支援開始前・終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認したり、支援の振り返りを行い、気づいた点を共有している。	・支援終了後の打ち合わせは当日中に行えないため、翌日、支援開始前の打ち合わせと一緒にしている。 ・朝から子ども達が利用する長期休暇中は、比較的子ども達が落ち着いている昼食時間に見守り職員を除いた職員で打ち合わせを行っている。	・短時間で効率的に成果を上げることができる会議運営が必要である。
3	・日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	・個別支援計画の具体的到達目標と支援内容に沿った支援記録の様式にしている。	・より具体的到達目標の達成度を数値で把握できる様式に改善する必要がある。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・習慣化をはかるための取り組みが、保護者の目からは活動プログラムの固定化と誤解されることがあること。	・保護者によっては習慣化をはかる意義と方法についての理解が得られていない場合がある。	・日ごろのLINEでの活動報告や、モニタリングで保護者に習慣化の意義と方法、取り組んだ成果を伝えたい。
2	・放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がない。	・放課後の場合、下校時間から帰宅時間を考えると、事業所外に出る時間がほとんどない。	・保護者の意向を確認しつつ、土曜日祝日のイベントに地域の他のこどもが参加できるような企画を考えたい。
3	・父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士が交流する機会を設ける等の支援はできていない。	・保護者から意見をきちんと聞いたわけではないが、今回の保護者アンケートでは保護者同士の交流を望む意見と、望まない意見がある。	・父母の会や、保護者会等、保護者同士が交流することについてどのような考えをもっているかをアンケートや聞き取り等で把握することから始める必要がある。